

<モンゴル国立医科大学主催職業性肺疾患の国際会議での講義>

森本 泰夫 教授 (呼吸病態学)、石丸 知宏 准教授 (医学概論) は、7 月 1 日にモンゴル・ウランバートル市近郊で開催されたアスベスト関連疾患を中心とした職業性肺疾患に関する国際会議にて、韓国カソリック大学、労働安全衛生総合研究所 (オンライン参加) の関係者と共に講義を提供しました。

本国際会議は、モンゴル国立医科大学が主催、WHO 西太平洋地域事務局とモンゴル呼吸器学会、モンゴル第一中央病院の後援を受けており、本学は WHO 指定協力機関として講義を提供することで開催を支援しました。

アスベスト関連疾患を中心とした職業性肺疾患に関する教育をテーマとした本会議には、モンゴル国内から約 30 名の呼吸器内科医が参加しました。前半は森本教授がアスベスト関連疾患の病態生理に関する講義を行い、労災補償制度、特殊健康診断、モンゴルでのアスベスト使用状況を説明した他、後半は、テーマを広げ、森本教授が大気汚染対策、石丸准教授が疫学調査、その他の講師が作業環境測定や職場環境改善に関して講義を行いました。



森本教授による講義の様子



参加者との集合写真